

電波政策2020懇談会 制度WG ご説明資料

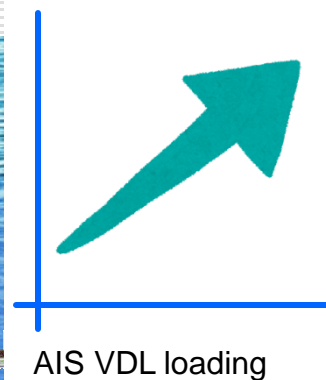
平成28年3月18日

 **日本無線株式會社**

海上無線通信の現状と問題

海上における主力通信は、船舶の遭難・安全通信、港務通信、船間通信や水先業務などに使用する国際VHF無線通信(アナログFM)である

国際VHF帯のデータ通信「AIS」は、年々利用者の増加によりスロット使用率が増大している(割当て周波数がひっ迫)

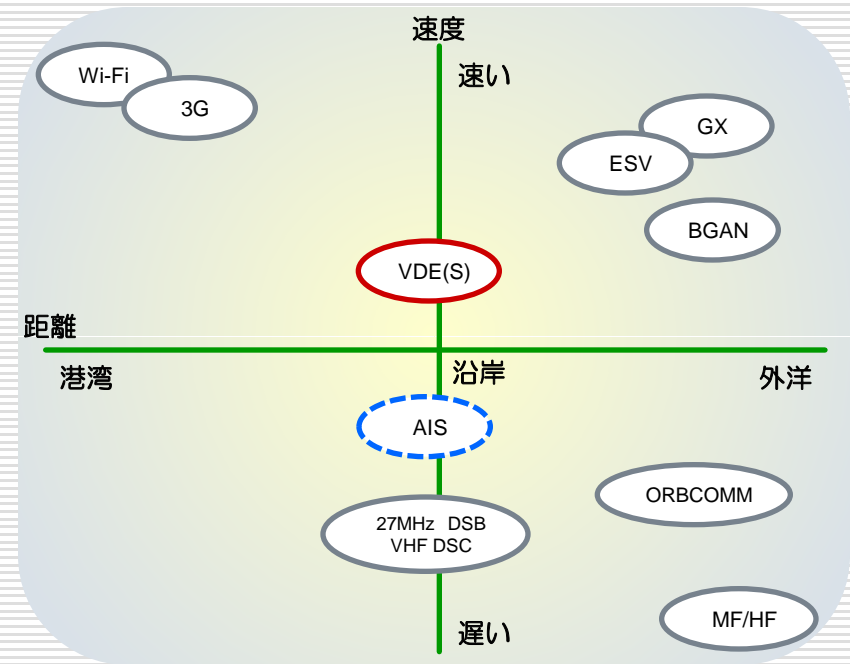
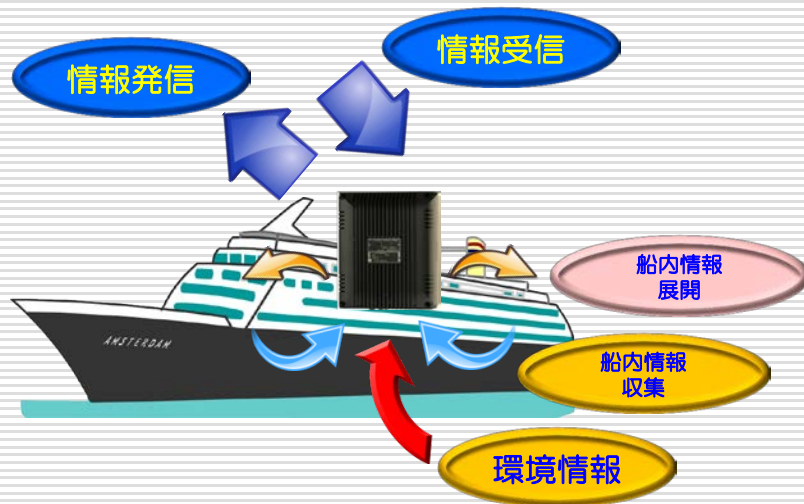


メキシコ湾; 60%超
東京湾; 40%
釜山; 40%超

(ITU-R報告M.2287-0より)

国際VHF帯データ通信のご紹介

- 海上において携帯と衛星通信の間のエリアを埋められる
- 音声による情報の制限や、作業の煩雑さを解消
- AISの割当て周波数ひっ迫を解消
- AISより多くのデータ交換が可能
 - 船内外の状況を詳細に伝達
 - 多くのデータを受けられる
 - 多くのサービス提供が可能



- VHF帯データ通信比較 -

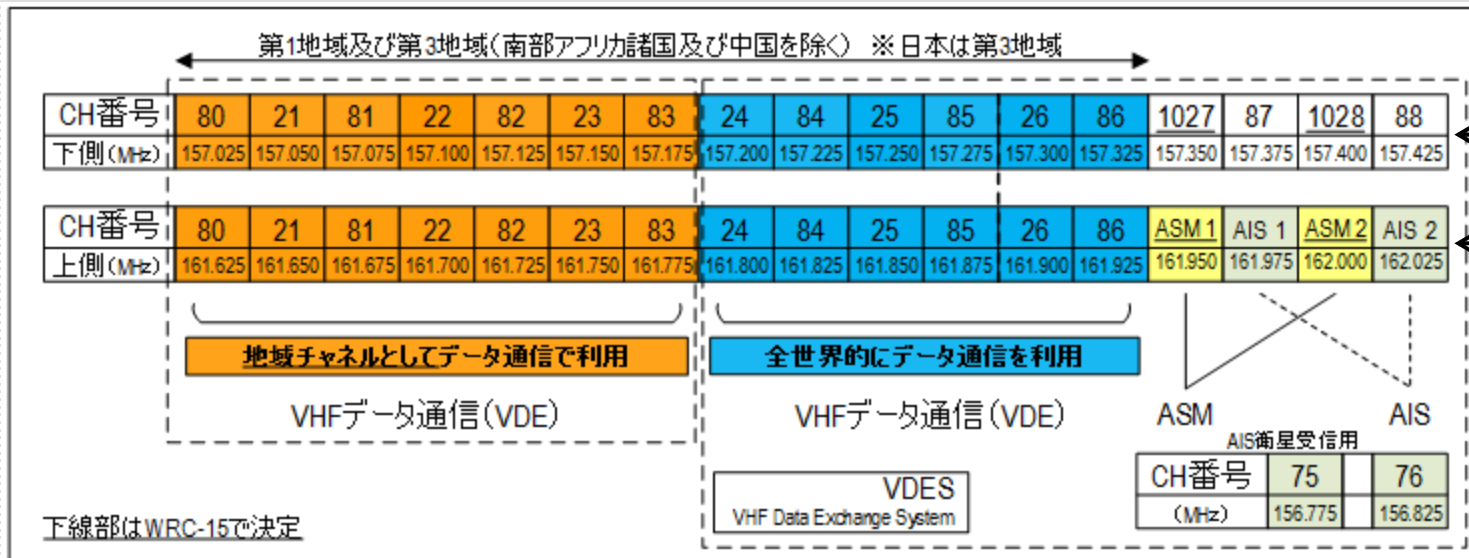
システム	伝送速度 [kbps]
VDE	28.8 - 307.2
AIS	9.6
DSC	1.2

国際VHF帯データ通信のご紹介

VHFデータ通信により、燃費を含む物流の効率化，船内居住環境の向上そして安全航行のさらなる向上が期待できると考えています。



国際VHF帯データ通信のご紹介



意見

我が国では、データ通信用周波数をアナログ音声通信として、多くの無線局に使用されており、データ通信を導入できる周波数環境にありません。

従来、国際条約等に基づく周波数変更対策費用は、全額国で損失補償を行っているため、同様の対応をいただくとともに、国際VHF帯へのデータ通信導入に係る電波法令の制度整備を円滑に進めていただくよう要望いたします。